当薬局における薬剤使用期間中の患者フォローアップ ～オール薬剤師での実施に向けた体制構築～（第2報）

〇加藤正久1、金子絵里奈1、坂口真琴1、魚住佐知1、蛯原悠介1、松永広幹1、加留部信介1、園田正信1、田中泰三2
1.福岡市薬剤師会薬局七隈店、2.（一社）福岡市薬剤師会

【背景】

福岡市薬剤師会薬局七隈店（以下、当薬局）は、服薬指導に携わる全ての薬剤師が薬剤使用期間中の患者フォローアップ（以下、FU）を実施するため、「FU全例実施レジメンの選定」「FU必要性の事前評価」「支援ツールの整備」からなるFU実施体制を構築し、CapeOX ± Bevacizumab 療法（以下、対象レジメン）を受けている患者に対し運用した。
第54回日本薬剤師会学術大会（以下、前大会）で、2020年5月から12月までの期間において、対象レジメンにおけるFU件数の増加が認められただけでなく対象レジメン以外のレジメンにおいても副次的にFU件数が増加したことを報告した。その後の状況を調査し、体制の最適化を図るにあたり重要な要素が確認できたため報告する。

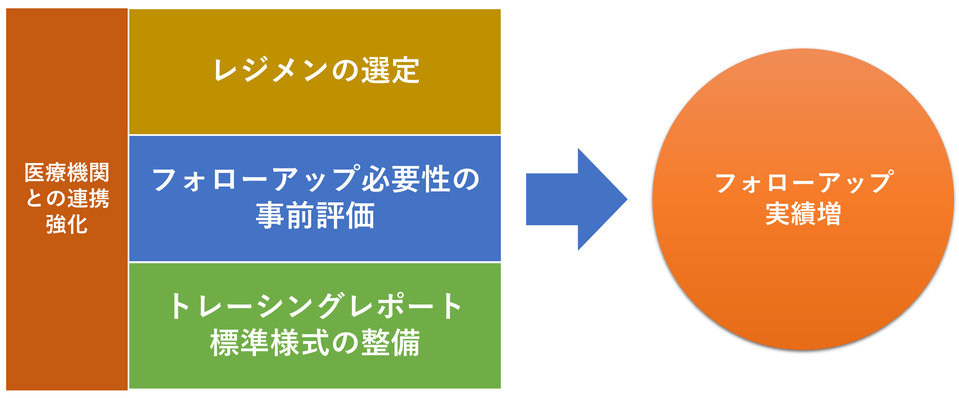

Fig.1　がん患者へのフォローアップ体制の構築（第53回日本薬剤師会学術大会より）

【方法】

2021年1月から2022年3月までの期間について、医療機関で外来がん化学療法を受け当薬局で抗悪性腫瘍薬や支持療法薬を調剤した患者に対し行ったFU（以下、全がんFU）件数を月毎に集計した。カペシタビン・S-1（以下、両剤）・アプレピタントの調剤件数、及び、カペシタビンが含まれるレジメンのFU（以下、CapeFU）件数、S-1が含まれるレジメンのFU（以下、S-1FU）件数、両剤とも含まないレジメンのFU（以下、etcFU）件数を集計し、全がんFU件数の変動要因を調査した。

【結果】

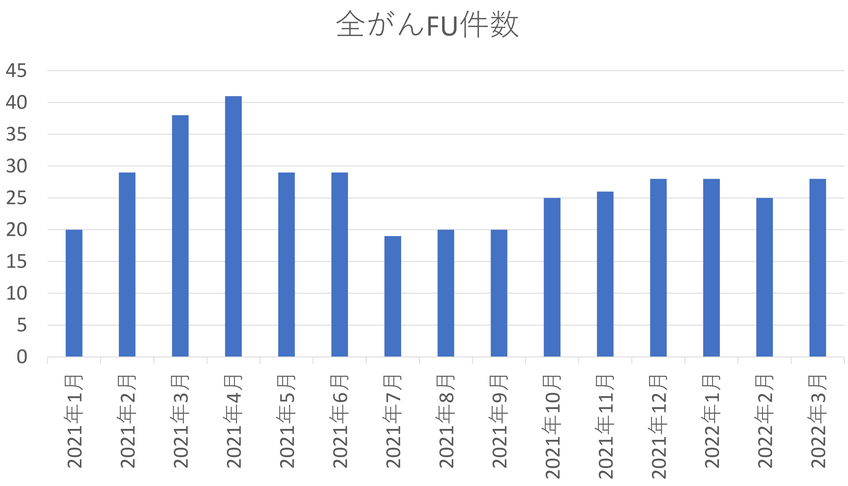

Fig.2 調査期間における月毎の全がんFU件数。平均28.0件、中央値27件。
2021年3月及び4月は38件、41件と中央値より顕著に多く、2021年7月～9月は19件、20件、20件と顕著に少なかった。

全がんFU件数との相関係数（R^2）	
S-1FU件数	0.7233
Apr調剤件数	0.5260
etcFU件数	0.4620
S-1調剤件数	0.3000
CapeFU件数	0.2400
Cape調剤件数	6.800×10^{-6}

Table1　全がんFU件数との相関係数を算出し比較した。最も相関係数が高かったのは、S-1FU件数、続いてApr調剤件数、etcFU件数となった。

Fig.3　カペシタビン・S-1・アプレピタントの調剤件数、及び、カペシタビンが含まれるレジメンのFU件数、S-1が含まれるレジメンのFU件数、両剤とも含まないレジメンのFU件数を集計した。S-1FU件数とetcFU件数において減少傾向がみられた。

【考察】

本調査により、当薬局の全がんFU件数は、アプレピタントが投与される高度及び中等度催吐性リスクレジメンの患者数の影響を受けるものの、S-1FU件数の関与が大きく、etcFU件数の寄与も認められることが示唆された。S-1FU件数、及びetcFU件数は増加を示したが一過性のものであった。前大会において報告した対象レジメン以外のレジメンにおけるFU件数増加という副次的効果は短期的であり、中長期的な実績の維持は困難であると考えられる。今後は、S-1FUの実績変動要因調査と対策を検討していきたい。

第55回日本薬剤師会学術大会利益相反の開示　演者名：加藤正久　私は今回の演題に関連して、開示すべき利益相反はありません